

カッパドキア(トルコ)と青島(宮崎県)のキノコ岩

＜須藤 茂¹⁾＞

地質の景勝地にはしばしばキノコ状の岩があります。その成因の一部についての侵食モデルが本誌に紹介されています。ここでは写真を示します。

トルコ中央部の海拔1,000-1,500m程のアナトリア高原に、奇岩と文化の複合世界遺産に指定されたカッパドキアがあります。岩石は、主として、凝灰岩からなります。この辺では最上位にあるクズルカヤ・イグニンプライトは溶結していますが、それ以外の凝灰岩はほとんど非溶結です。日本語の様々な紹介には、キノコの上部は玄武岩溶岩だとか、凝灰岩の噴出源はエルジアス・ダー(山)であるとか書かれていますが、この辺には溶岩はなく、凝灰岩の噴出源の候補地としてはニーデ北東、ネブシェヒルとデリンクユの間、エルダシュ・ダーとハッサン・ダーの間などが挙げられています。



図1 カッパドキア位置図。

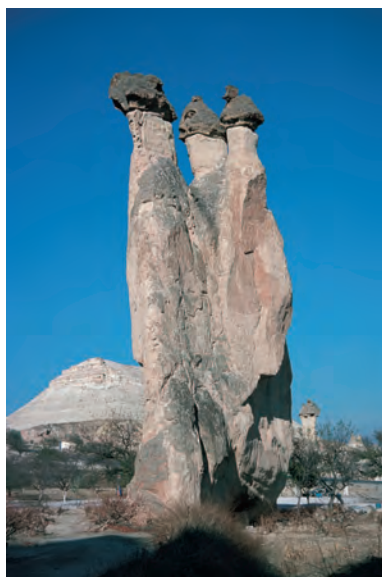


写真1 集合キノコ。ゼルベ南西。住宅地のそばでは、崩落により死者が出ることもあります。



写真2 林立キノコ。ゼルベ南西。陶器の産地アバノスでは、職人がろくろを足で回しながら粘土をキノコの形にして「カッパドキア!」と言って客を笑わせます。



写真3 親キノコの上に子キノコ。別な場所で、ハンマーで岩を叩いたところ、すべて軟らかく、それほど固さの違いは感じませんでした。ユルギュップ北。



写真4 最上位が約4百万年前のクズルカヤ(赤い岩の意)・イグニンプライト、その下、セリメ凝灰岩(古い情報です。現在は違う地層名で呼ばれているようです)。尖塔の頭の位置は様々です。セリメ。

2009年5月号



写真5 例外的に本当に固い岩を載せたキノコ岩。上に載っているのはクズルカヤ・イグニンプライトです。この辺では厚さ数mしかありませんが、強く溶結しています。セリメ東方。

1) 産総研 地質情報研究部門



写真6 緩く傾いた凝灰岩などの地層が侵食されたカッパドキアの地形。ウチヒサルから東方の眺め。遠方の山はエルジヤス火山(3,916m)。



写真7 やわらかい凝灰岩。軽石はつぶれていません。ユルギュップ北。

宮崎県の青島は洗濯岩で有名ですが、キノコ岩もあります。いちいち名前が付けられてもよさそうなのですが、看板はありません。筆者訪問時には、地形や地質の説明板もありませんでした。新第三紀の宮崎層群の、主として砂岩泥岩等量の青島互層からなります。



写真8 青島の洗濯岩。もうちょっとがんばればキノコ岩になれそうだった岩がたくさん転がっています。



写真9 少し低いですがキノコ岩。



写真10 蜂の巣岩。



写真11 地層の傾斜そのままの頭をした岩が多いです。急に見えますが、南東側に10-15度の傾斜です。